

# 京都府漁海況情報

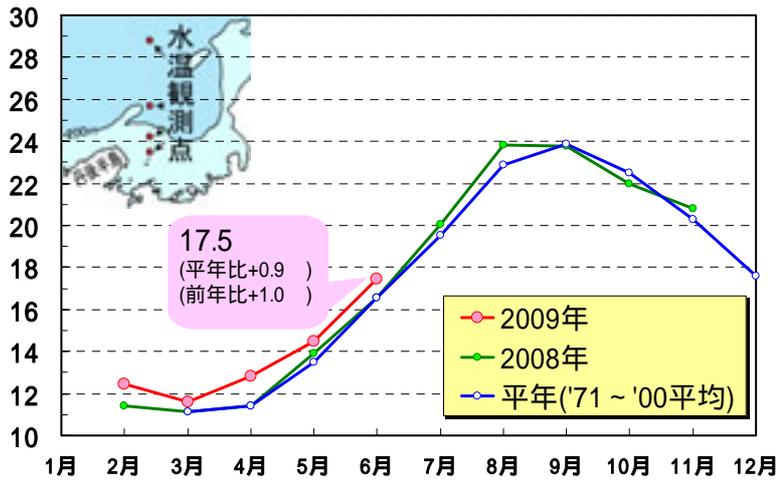
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部  
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>  
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

## 海の状況

### 【現況】

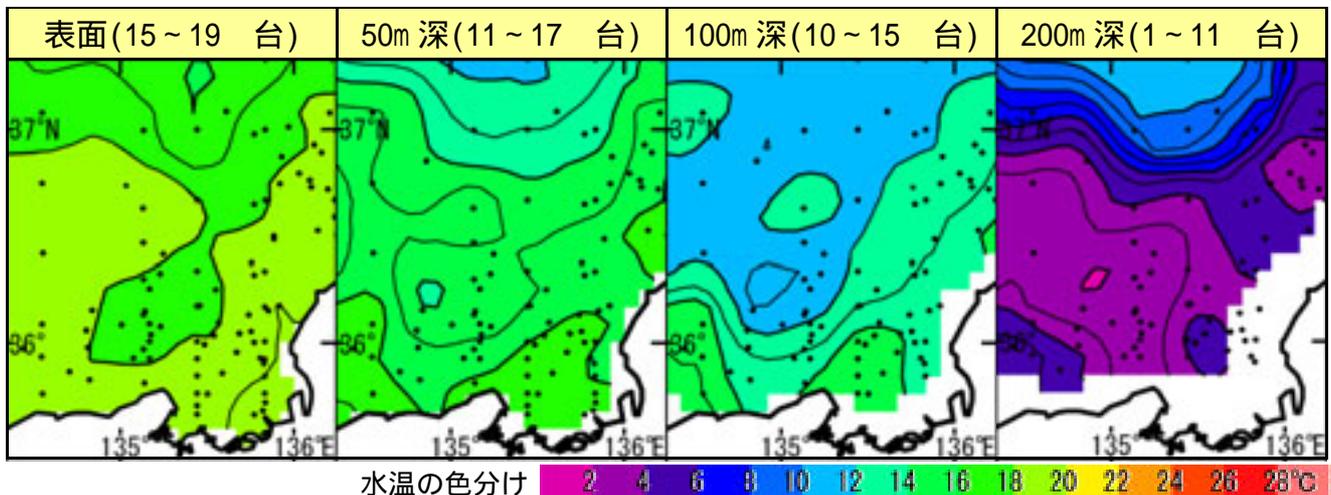
6 月上旬における京都府周辺の表層水温は、平年より高めで推移しています。

京都府沖の表層水温(0～50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2009年6月上旬)

資料元：(独)日本海区水産研究所



### 【今後の見込み】

資料元：(独)日本海区水産研究所, 気象庁, 九州大学応用力学研究所

向こう 1 か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並み」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年より強め」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し	「平年より弱め」で推移する見込み

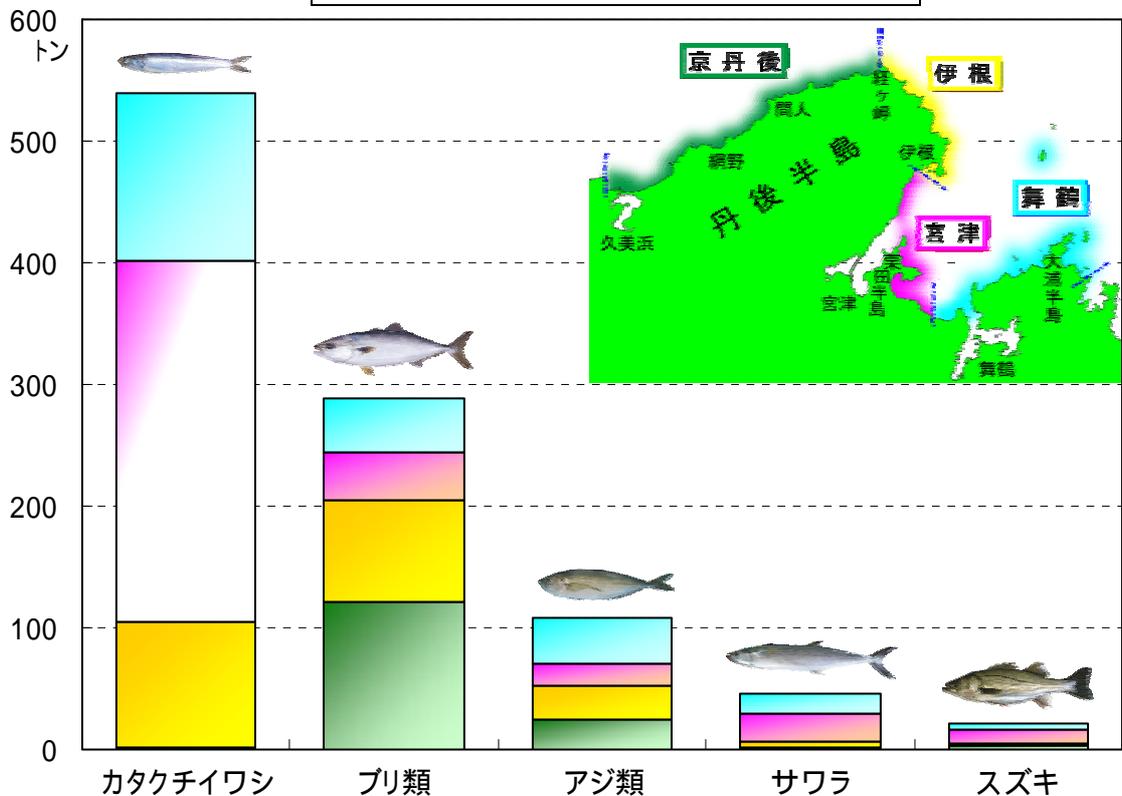
冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすいと考えられています

# 漁模様 ～2009年5月～

## 【定置網漁業】

カタクチイワシが好漁で、全体では前年および平年をやや上回る水揚げでした。

2009年5月の地域別漁獲量(上位5魚種)

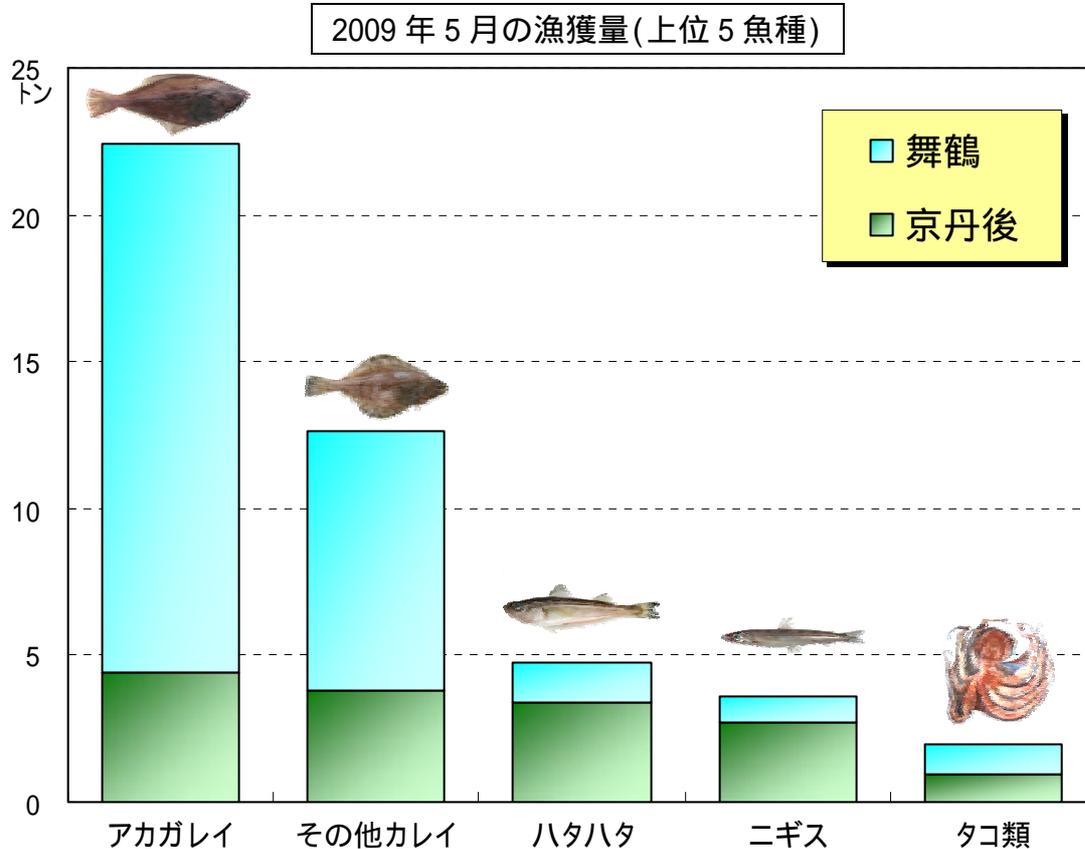


5月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2009年	2008年(前年比)	平年(平年比)	備考
カタクチイワシ <small>(たれ)</small>	540.0	133.5 (404%)	307.0 (176%)	<カタクチイワシ> 体長5～12cm台で、10cm未満が主体でした。 <プリ類> はまち銘柄(尾さ長35～45cm)が主体でした。 <サワラ> さごし銘柄(尾さ長40～55cm台)が約9割、さわら銘柄(尾さ長60～70cm台)が約1割でした。
プリ類	288.3	463.9 (62%)	151.0 (191%)	
アジ類	107.5	121.1 (89%)	372.2 (29%)	
サワラ	46.1	127.7 (36%)	38.0 (121%)	
スズキ	21.4	13.3 (161%)	5.9 (362%)	
カマス類	21.0	13.1 (160%)	7.2 (291%)	
マグロ類	10.0	11.2 (89%)	8.5 (117%)	
トビウオ	9.7	6.5 (150%)	6.9 (140%)	
サバ類	9.2	24.8 (37%)	26.7 (34%)	
イカ類	4.5	20.6 (22%)	36.9 (12%)	
その他	57.5	59.4 (97%)	76.1 (76%)	
合計	1115.1	995.1 (112%)	1036.4 (108%)	

平年は過去10年平均

## 【底曳網漁業】

前月と同様にハタハタが不漁で、全体では前年および平年の6割台とやや低調な水揚げでした。



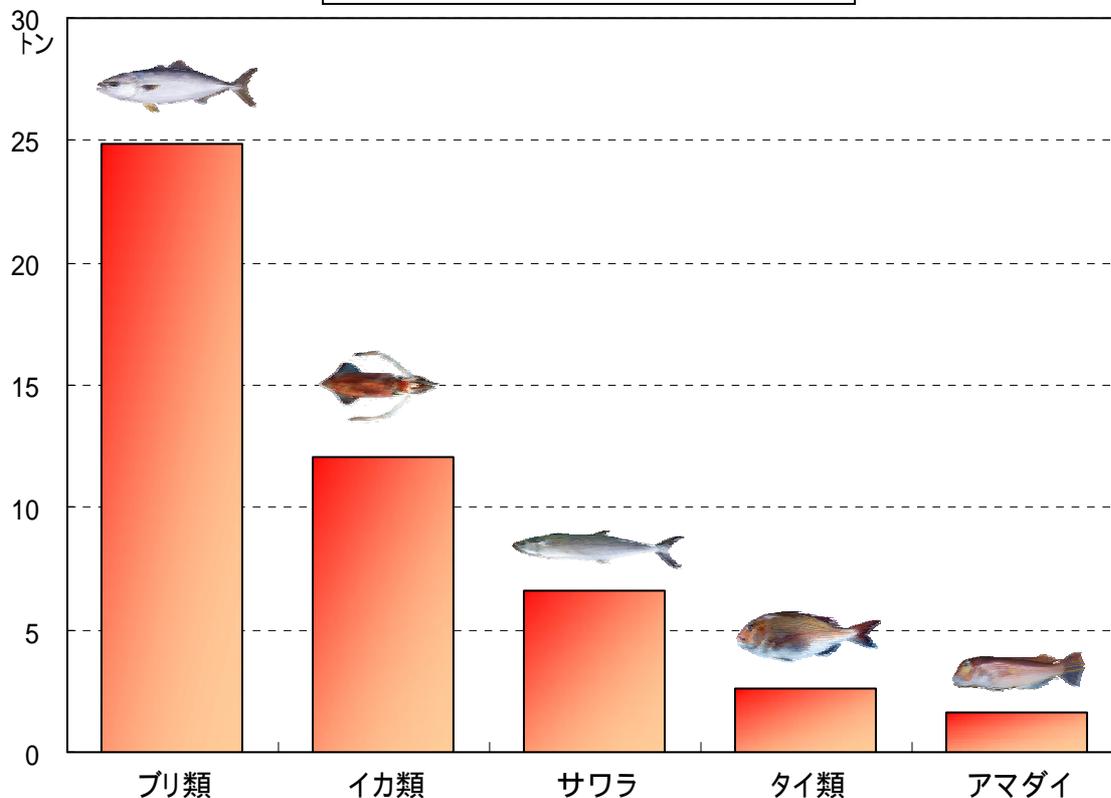
5月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2009年	2008年(前年比)	平年(平年比)	備考
アカガレイ(まかれい)	22.4	19.5 (115%)	11.5 (194%)	<その他カレイ> ソウハチ(えてがれい)が5.8トン、ヒレグロ(黒がれい)が3.5トン、ヤナギムシガレイ(ささがれい)が2.4トンなどでした。
その他カレイ	12.6	14.1 (89%)	25.0 (51%)	
ハタハタ	4.8	38.4 (12%)	21.2 (22%)	
ニギス(沖きす)	3.6	1.4 (260%)	4.8 (76%)	
タコ類	2.0	3.1 (64%)	4.7 (42%)	
イカ類	1.9	1.2 (154%)	3.9 (49%)	
エビ類	1.1	0.9 (120%)	0.8 (141%)	
貝類	1.0	0.8 (129%)	1.1 (96%)	
メバル類	0.4	0.3 (134%)	0.3 (114%)	
タイ類	0.4	0.6 (61%)	0.8 (49%)	
その他	6.8	9.5 (71%)	10.0 (68%)	
合計	56.9	89.9 (63%)	84.0 (68%)	

平年は過去10年平均

## 【釣り・はえなわ漁業】

ブリ類が好漁でした。全体では前年および平年とほぼ同じくらいの水揚げでした。

2009年5月の漁獲量(上位5魚種)



5月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2009年	2008年(前年比)	平年(平年比)	備考
ブリ類	24.8	16.2 (153%)	11.8 (211%)	<ブリ類> 定置網と同様に、はまち銘柄が主体でした。 <イカ類> スルメイカが主体でした。
イカ類	12.0	14.8 (81%)	22.9 (53%)	
サワラ	6.6	7.7 (85%)	2.5 (262%)	
タイ類	2.6	2.2 (119%)	4.0 (66%)	
アマダイ	1.6	2.0 (84%)	2.3 (73%)	
メバル類	1.5	2.2 (69%)	2.7 (56%)	
スズキ	0.9	0.4 (208%)	3.6 (24%)	
アジ類	0.6	-	1.3 (41%)	
カマス類	0.2	-	-	
タチウオ	0.1	0.3 (50%)	0.6 (22%)	
その他	3.2	2.3 (144%)	4.4 (73%)	
合計	54.2	48.1 (113%)	56.1 (97%)	

平年は過去10年平均

## 【トピック ~色々なクラゲ~】

近年、海が温暖化しているといわれています。その影響からか丹後の海では様々な種類のクラゲやサルパを目にする機会が増えており、今年も春先から同じような状況です。クラゲは、小さくても強い毒針を持った種類がいますので、漁労作業時など十分にご注意ください。下の写真は、近年丹後の海で確認されているクラゲの一例です。

<p style="text-align: center;"><b>ミズクラゲ</b></p>  <p>傘径：最大 30cm 以上 分布：日本各地 特徴：傘の中央付近にある生殖腺が4つの目のように見えます。</p>	<p style="text-align: center;"><b>アカクラゲ</b></p>  <p>傘径：最大約 15cm 分布：日本各地 特徴：傘の中央から縁辺にのびる16本の赤い筋があります。強い刺胞毒を持ちます。</p>	<p style="text-align: center;"><b>オワンクラゲ</b></p>  <p>傘径：最大約 20cm 分布：日本各地 特徴：傘は厚みのあるお椀型です。ノーベル化学賞の下村脩博士により有名になった発光クラゲ。</p>
<p style="text-align: center;"><b>オキクラゲ</b></p>  <p>傘径：最大約 7cm 分布：主に黒潮域 特徴：体に帯びる色彩には紫色や赤茶色など個体差があります。強い刺胞毒を持ちます。</p>	<p style="text-align: center;"><b>カギノテクラゲ</b></p>  <p>傘径：最大約 2cm 分布：日本各地の藻場 特徴：傘に十字形をした生殖腺があります。小型ながら強い刺胞毒を持ちます。春～夏に多く出現。</p>	<p style="text-align: center;"><b>カブトクラゲ</b></p>  <p>体長：最大約 10cm 分布：日本各地 特徴：名前のごとく兜のような体形をしています。</p>
<p style="text-align: center;"><b>オビクラゲ</b></p>  <p>体長：最大 1m 以上 分布：主に南日本 特徴：帯のような細長い体形をしており、体をくねらせて泳ぎます。</p>	<p style="text-align: center;"><b>ウリクラゲ</b></p>  <p>体長：最大約 15cm 分布：日本各地 特徴：名前のごとく瓜のような体形をしています。</p>	<p style="text-align: center;"><b>ギンカクラゲ</b></p>  <p>傘径：最大約 4cm 分布：主に太平洋 特徴：名前のごとく銀貨のような円盤状のクラゲで、つねに海面を漂っています。</p>
<p style="text-align: center;"><b>エビクラゲ</b></p>  <p>傘径：最大約 25cm 分布：西日本の沿岸各地 特徴：傘の中央に突起があります。エビが居つくことが多いのでエビクラゲと呼ばれます。</p>	<p style="text-align: center;"><b>エチゼンクラゲ</b></p>  <p>傘径：最大 1m 以上 分布：主に東シナ海やその周辺 特徴：近年、夏～晩秋に対馬暖流にのって大量に押し寄せることが多くなっています。刺胞毒有。</p>	<p style="text-align: center;"><b>サルパ類</b></p>  <p>体長：約 5cm (一部の種は 10cm 超) 分布：日本各地 特徴：単独で浮遊するほか、たくさんの個体が列車のように連なった状態もよくみられます。</p>

印はクラゲガイドブック(並河洋 / 楚山勇 TBS プリタニカ出版)の写真です。